

第63回試験研究成果発表会 ～露地野菜の台風対策～

【日 時】 令和7年8月8日（金）午後1時10分～午後5時5分

【場 所】 農林総合研究センター大会議室（千葉市緑区大金沢町180-1）

発表1 情報提供

露地畑における排水性の評価方法と対策技術

土壌環境研究室 宮本 昇

圃場の排水不良は、作物の生育不良および収量低下の原因となります。圃場の排水対策を講じるにあたっては、現状の排水性と対策後の効果を把握する必要があります。そこで、圃場の高低差や土壌の排水性を簡易に調査する方法、降雨後の土壌水分量の推移を予測する手法を明らかにしました。また、排水不良の対策技術である農業機械による硬盤破碎、縦穴暗渠及び緑肥導入の効果を紹介します。



カットブレーカーによる硬盤破碎



縦穴暗渠

発表2 情報提供

秋冬ニンジンの湿害対策

水稻・畑地園芸研究所 畑地利用研究室 田中 貴久

近年、夏秋期の台風や豪雨による農業への被害は深刻化しており、秋冬ニンジンでは湿害による欠株や根部の腐敗、規格外品の増加に繋がり、減収や品質低下が問題となっています。そこで、ニンジンの生育ステージごとの湿害リスクや播き直しに適する品種、播き直しの限界時期を明らかにしましたので紹介します。



人為的に湛水処理した様子



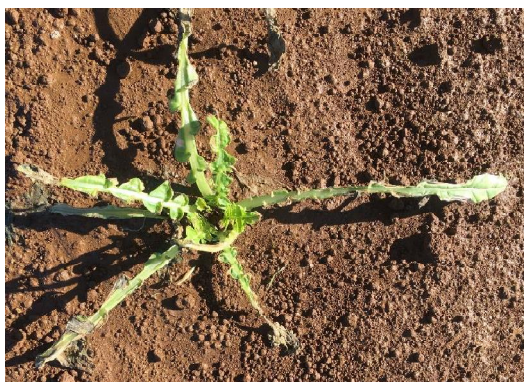
湿害により岐根が発生したニンジン

発表3 情報提供

ダイコンのべたがけによる風害・潮風害対策

水稻・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 田村 創

地球温暖化により勢力の強い台風の増加が予測されており、露地野菜への風害・潮風害対策がますます重要になっています。そこで、ダイコン秋冬どり栽培において、べたがけによる暴風・潮風害対策に有効な資材、被覆方法・時期等、さらに被害を受けた場合の生育促進方法を紹介します。



潮風害を受けたダイコン



べたがけによる暴風・潮風害対策事例

発表4 情報提供

かけっぱなしで大丈夫！ キャベツのべたがけによる台風対策

水稻・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 大川 佳織

秋冬どりキャベツは台風の影響を受けやすい8～9月に定植が行われます。まだ小さいキャベツを強風から守るのにはべたがけが有効ですが、台風が近付くことが分かってから広い面積を被覆するのは、困難です。そこで、前もってべたがけして、台風のリスクが低くなってから被覆を除去する「かけっぱなし栽培」を開発しましたので紹介します。



強風で被害を受けたキャベツ



べたがけによるキャベツの被覆

発表5 情報提供

台風後に多発するキャベツ、ネギの細菌性病害対策

病理昆虫研究室 横山 とも子

近年、露地野菜では夏秋期の台風や豪雨などにより細菌性の病害が多発し、問題となっています。そこで、今回はその中からキャベツ黒腐病及びネギ軟腐病を対象に、薬剤による防除対策を確立するため、有効な薬剤の種類及び処理時期、降水量と防除効果との関係について検討したので紹介します。



キャベツ黒腐病発生株



ネギ軟腐病発生圃場

発表6 成果発表

どうする？台風時のネギ倒伏被害対策 Part①事前対策の優先度

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 大川 佳織

ネギでは台風による被害の一つとして、倒伏があります。あらかじめ土寄せをしておくことで、倒伏をある程度制限できますが、台風前の限られた時間の中、どの圃場を優先して対策すべきでしょうか。本発表では、どのような条件で倒伏被害が大きくなりやすいか、品種・大きさ・角度といった要因についてご説明します。そこから、台風前の土寄せ優先度の判断方法を紐解いていきます。



土寄せによる倒伏防止作業

発表7 成果発表

どうする？台風時のネギ倒伏被害対策 Part②事後ネギ直しの優先度

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 大川 佳織

台風によるネギ倒伏後には、倒れたネギを1本ずつ手作業で起こす「ネギ直し」が行われます。しかし、これには多大な労力を要するため、必要性の高い圃場を優先し、効果の少ない圃場ではネギ直しを行わない判断も重要です。本発表では、Part①でご紹介したネギの回復遅延要因から、ネギ直しの優先度を判断する方法をご紹介します。また、「いつするべきか」や「収穫物の曲がり減るか」等のネギ直しのよくある疑問についても考えていきます。



ネギの倒伏被害

発表 8 情報提供

食用ナバナにおける秋季の気象災害への対策技術の確立

暖地園芸研究所 野菜・花き研究室 曾我 みちる

食用ナバナは、台風等の秋期の気象災害で収穫始期の遅れや減収などの問題が生じています。令和元年度台風では大規模な潮風害が発生し、約半数の圃場で播き直しを余儀なくされました。しかし、播き直し等、台風の事後対策に関する知見が少なく、秋季の気象災害への対策技術の確立が望まれています。そこで、播き直しするかを判断するための被害程度を目安や、播き直しで対応できる時期、播き直しに適した品種を明らかにしたので紹介します。



台風 19 号の被害を受けた食用ナバナ
(令和元年 10 月)



10 月中旬に播種した中生品種
「CR 栄華」(1 月中旬撮影)